

膵臓がん早期診断プロジェクト

横浜医療センター消化器内科では、超音波内視鏡（以下 EUS）や内視鏡的逆行性胆管膵管造影（以下 ERCP）を用いた胆膵疾患の検査・治療を積極的に行っています。特に、膵臓がんの早期診断と治療を最大の目標の一つとして日々診療を行っています。

国立がん研究センター がん情報サービスによると 2019 年に膵臓がんによって亡くなられた患者さんは 36,356 人となり、臓器別では第 4 位となっています。5 年生存率は 8.5%と予後は非常に厳しいことが報告されています。

一方で、Stage0 で診断された場合の 5 年生存率は 85.8%と報告されており、早期診断が予後改善の最大の鍵と考えられます。しかし、Stage0 で診断された患者さんは全体の 1%に満たず早期診断は容易ではありません。

そこで、当科では新たに「膵臓がん早期診断プロジェクト」を発足致しました。このプロジェクトは地域の先生方との病診連携を通し

て、膵臓がんを疑うサインが発見された場合に、直ちに精密検査を行って適切な診断を行うものです。

膵臓がん発症リスクと考えられる項目

①自覚症状

原因のはっきりしない腹痛・背部痛、食欲不振、早期膨満感、黄疸、体重減少

②検査所見

膵酵素（アミラーゼ、リパーゼ）の異常、腫瘍マーカー（CA19-9、Dupan-II、Span-I など）

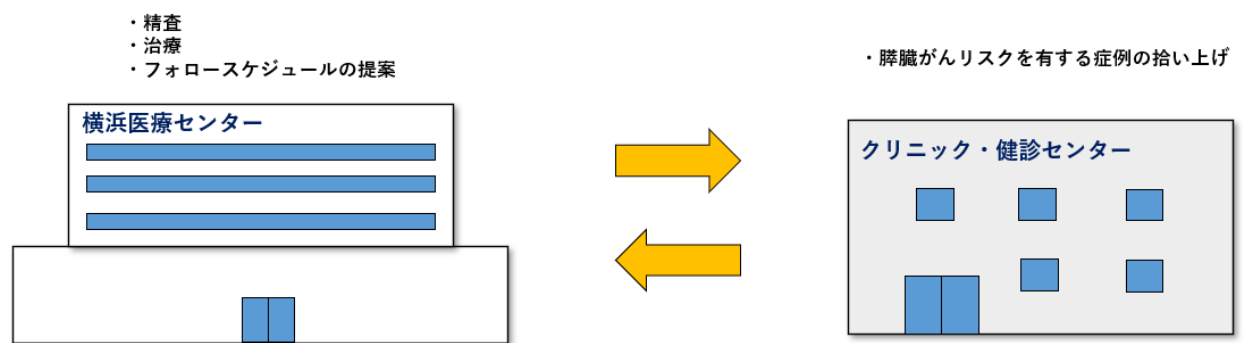
膵嚢胞、膵管拡張、膵腫瘍など

③患者背景

糖尿病、家族歴、慢性膵炎など

具体的には、上記に示すような膵臓がん発症のリスクファクターを有する患者さんを積極的にご紹介いただき、精密検査を行います。治療の必要がある病変が発見された場合は引き続き、消化器内科・外科を中心とした集学的治療を行っていきます。

このプロジェクトの最大の特徴は、**地域の先生方と連携し、経過観察を行っていくこと**です。当科において膵臓がん発症リスクを評価し、リスクに応じた検査スケジュールを提案させていただきます。先生方と我々で共同して検査スケジュールを管理しながら経過観察を行うことで、膵臓がんを疑うサインを早期に拾い上げることを目的としています。



※紹介いただいた先生方のご要望があれば、当院のみで経過観察を行っていきます。

膵臓がんの早期診断には先生方のご協力が不可欠です。今後とも先生方のお力をお借りしつつ、膵臓がんの早期診断に少しでも貢献できたらと考えております。上記の様な患者さんがいらっしゃいましたら、是非当科までご紹介頂ければ幸いです。

専門の外来枠になりますので、予約センター（045-853-8362）にお問い合わせのうえ、診察予約をお取りください。なお、ご不明な点や緊急を要する方の場合には消化器内科まで直接お電話でお問い合わせください（横浜医療センター（代表）045-851-2621）。

ご不明な点や緊急を要する方の場合には直接お電話での問い合わせでも構いません。よろしくお願いたします。

担当責任者 消化器内科 鈴木雅人

消化器内科 部長 小松達司

松島昭三

野中 敬